

No.19

東京文化資源会議

「ティーチャ」

T-Cha

ニューズレター



東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance



@Hijiribashi Exhibitions

都市と文化資源の
未来を問い直す博覧会
「ひじりばし
博覧会」

大規模な文化資源
博覧会が開催

東京文化資源会議では、個別地域にとどまらず、都心北東部全体のエリアに点在する豊かな文化資源に目を向けながら、地域資源の発掘や活用へと結びつける活動をこれまで行ってきました。各PTによる活動は、コロナ禍にありながらも地道な活動や提案、実験的な取り組み、リサーチなど幅広く、ポストコロナ時代における地域資源のあり方を模索してきました。今回、各PTの取り組みをお披露目しながら、これからの東京を議論する企画として、恒例となった「ひじりばし博覧会」が、5月5日にソラシティカンファレンスセンターにて開催されました。

2020年7月に開催したひじりばし博覧会は、21年は新型コロナウイルス感染症拡大で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。感染状況も落ち着いたことから今回はリアル開催で、会場には多くの参加者や関係

者が集まり、一日かけて様々な対話や議論、展示、体験等が行われたイベントとなりました。

**文化資源を活かす
未来の東京を考える**

博覧会は、終日かけて合計14のプロジェクトの企画が展開されました。最も早い6時半から行われたのは、スポーツPTによる5カ所開催のラジオペ操でした。公共空間を間借りして集い、ともに身体を動かす実践をし、ソーシティでは都市空間において特定グループによる占有ではなく見知らぬ者同士が自由にアクセスし、ゆるやかにつながることでもたらされる相互作用について議論しました。谷根千あたり研究会では、谷根千周辺を調査する大学院生らの研究発表が行われ、多様な地域資源、歴史的な文化資源が豊富にある谷根千周辺の可能性が発表されました。

「T.T.Tプロジェクトは、「動く公民館」を考える」と題し、新たな生活圏のデザインを目的に街路空間やスローモビリティの活用方法について議論を行いました。コロナ禍を通じて、人々のライフスタイルやワークスタイルが変化するなか、世界中の都市における生活圏の再定義が求められており、新たな「パブリックつながり」をどのように回復できるのか、その方法論を探るための対



話となりました。当日はグラフィックコーディングによる議論の可視化も行われ、会が終わった後もゲストと参加者が意見を交わし合う場となりました。

お昼からは社教会堂PTによる「塾論」をテーマとしたシンポジウム、歴史文化まちづくり連携、本郷PT、神田かいわい指標ワークショップと盛り沢山の企画が開催されました。江戸時代から今日にいたるまで、「学びの場」として特別な役割を果たしてきた湯島・神田・上野。各精神文化・宗教施設関係者や研究者が集い、「これからの学びとはなにか？」を問い直すセッションとなりました。歴史文化まちづくりフォーラムでは、谷中地区を中心に歴史文化と暮らしや街並みの関係、そこにある地域住民同士の連帯、豊かなコミュニティのあり方などについて議論が交わされました。

本郷地域を研究対象とする学生らによる発表や、かつての旅館街・本郷という歴史や文化をどう継承しアーカイ



ブしていくかという議論が活発に行われました。神田かいわい指標をもとに地域を俯瞰し、そこから導かれるこれからの神田の姿をワークショップ形式で意見交換しながら、これからのまちのあり方を議論しました。ワークショップには樋口千代田区長も参加し、これからの千代田区、神田地域のまちづくりについて意見を交わされました。

夕方からは、秋葉原をアートの観点で着目し、アートと秋葉原を組み合わせた取り組みへと展開する「アーツ&アキバ運動構想」を提示した広域秋葉原PT。秋葉原に点在する最先端の技術と地域資源を組み合わせることで、新たな秋葉原の可能性を見出しています。地図ファブPTでは、文化資源区の「未来の地図」を描き、それらを叩き台に活発な議論が行われました。あえて遠くにポールを投げることで、議論を喚起する装置としての地図のあり方を提示しています。ポストコロナ後の上野公園を考える上野ナイトパークコンソーシアムは、ネット調査や関係者インタビューから見えてきた公園の課題や可能性をまとめた報告書と、それらを叩き台に様々な関係者らが



これからの上野公園を議論する場となりました。

最後のシンポジウムは東京全体の文化資源に着目し、都内各地で活動する実践者や研究者らとともに、未来の東京の地域文化資源の発掘、活用の方法、その先にあるこれからの東京の存在意義や可能性を考える場となりました。

**展示や体験も開催
歴史や文化と
最先端技術が一同に**

博覧会では、展示や体験コンテンツ、飲食企画も盛り沢山でした。展示では、閉館した朝陽館や菊水湯などの本郷のキオクが蓄積された物品や建物を再現した模型を披露し、本郷の地域資源を継承していく企画となりました。デジタルハリウッド大

学協力のもと、江戸後期の麹町を再現した作品「麹町照覧」の展示や、最先端技術のメタバースを様々な形で体験・遊べるコンテンツが展開されました。デジタル技術や最新テクノロジーも一つの文化資源と捉え、

最新技術と歴史文化をどのように組み合わせることで新たな可能性を見出すことができるのか、これから模索していきたいテーマの一つです。企業協力である野村不動産ホテルズのノーガホテル合同企画として、特製ビザロールやカヌレ、特製お弁当の販売や、珈琲を通して生産地支援を行う縁の木によるアップサイクル型のカップを使用した珈琲の提供などを通じて、参加者同士の交流や意見交換を活発に行われ、イベント空間全体における人と人をつなぐ役割としての飲食という文化も体現できました。

**五感で感じる
リアル開催の価値**

今回、初めてソーシティを全面的に活用し、さらにリアル開催にて登壇者や参加者同士の交流や直接の意見交換ができる場が実現できました。コロナ禍でオンライン開催も日常的となりましたが、五感すべてを活用して、考え、触れて、行動するということ、空間全体を通して文化資源にまつわる様々な学びや理解が得られました。

東京文化資源会議は、これからの都市と文化の未来を考え、新たな都市像を議論し、実践していきながら、未来を創造するために引き続き活動をしてまいります。

(記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木沙)



T-Cha NOW TOKYO PROJECT

東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、
東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。
ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。



路と辻 文化資源区の 未来を考える

「地図ファブ」では、「社寺会堂研究会」の宇野求先生とのコラボレーションで制作した「地図ファブが未来の地図を描く」まちは生きている2045 百路千辻」のお披露目をひじりばし博覧会にて行いました。社寺会堂の各宗教施設を一つの軸として、文化資源区の20年後の未来を地図と予想図（イラスト）に描きこんだものです。メンバーは実際に文化資源区を歩き直し、人々の注目を浴びている場所のみならず、地味で目立たないがコミュニティにとって大きな可能性を持つ場所などにも注目した。その中で「路」とそれが交わる「辻」を通奏低音として未来を考え、特に12か所をピックアップ

アップしています。

お披露目会では鈴木親彦「地図ファブ」PM司会のもと、中村雄祐先生からの概要説明、宇野求先生によるコンセプトの解説、真鍋陸太郎「地図ファブ」座長によるイラストの詳細な説明を行った後、フロアに開いての自由なディスカッションを行いました。ディスカッションでは同時多発的に議論が展開。文化資源区に暮らす住民としての考え方、遠方から定期的に訪れる人の視点、観光客として訪問する立場からの意見など、「未来の地図」を叩き台とした活発な意見交換が行われました。「まちは生きている 百路千辻」は人々の議論を喚起するためにあえて隙を作ってデザインしたもののだが、参加者が2045年の文化資源区を考えるきっかけとなったことは幸いです。（「まちは生きている2045百路千辻」は<https://tehai.jp/pis/mapfab/tokyometax-pass-2045/>からダウンロード可能）

歴史文化 まちづくり 各地連携図る

リノベーションまちづくり
制度研究会（リノベ研）は、ひ



じりばし博覧会にて谷中地区の地区計画策定等を踏まえ、「歴史文化まちづくり」と都市計画…谷中地区から考える」と題したトークセッションを実施しました。パネリストに、台東区都市計画審議会委員も務められている東京大学名誉教授・明治大学特任教授の大方潤一郎さん、文化庁で長らく歴史文化まちづくりに関わってこられた國學院大學教授の下間久美子さん、東京都庁で都市づくり政策の陣頭指揮を執ってこられた公益財団法人東京都公園協会理事の佐藤伸朗さんの3名をお迎えし、リノベ研メンバーで谷中のまちづくりに長く取り組んでいる椎原晶子さんの基調報告を受けて、歴史文化まちづくりと都市計画の関係について自由闊達な意見交換を行いました
当日は多くの方が会場にお越しください。和やかな雰囲気の中で本音や踏み込んだ意見が飛び交う充実したトークセッション

ンとなりました。リノベ研としては、今後、この記録をとりまとめるとともに、都区部で歴史文化まちづくりに取り組む団体の皆さんと一緒に「東京歴史文化まちづくり連携」の活動を軌道に乗せるべく、後方支援の役割を果たしていければ、と考えています。

本郷のキオク 展示で体感 議論も重ねる

本郷のキオクの未来プロジェクトでは、ひじりばし博覧会2022に合わせてシンポジウ



ムと展示企画を実施しました。

展示「本郷のキオクの未来2022展」では、本郷地域で惜しまれつつも閉業した旅館「朝陽館」、銭湯「菊水湯」、「喫茶ボンナ」等の物品や資料を展示し、本郷地域の地域資源を体感してもらえるところとなりました。同会場でも実施したシンポジウムでは、本郷地域を対象に研究を行った東京大学の学生チーム、修士論文を執筆された陳瑾瑜氏と森谷薫平氏の研究発表を聞きながら、本郷地域の文化資源についてクロスディスカッションを行いました。参加した人々からは、様々な観点から意見や議論をいただき、同時に、本郷地域における地域資源の重要性について意見を交わす場となりました。

塾論を問う これからの 学びの場

湯島神田上野社寺会堂研究会では4月と5月に社寺会堂塾の連続セッションを開催しました。この2回のセッションでは、湯島・神田・上野に点在する社寺お寺、教会、大学など学術・宗教施設の方々に、これまで担ってきた「学びの場」としての意

義や魅力について、具体的なお話や思い出などユーモアを交えながらお話しいただき、各施設に今日まで続く「学びの場」の成り立ちや地域との繋がりについて知る機会となりました。
学校や文化センター、教養講座など多くの教育施設がある中で、なぜ今「社寺会堂塾」なのか。今回のセッションでは、「旅」「異質性」「共有の回路」「身体性」「活きる知」「象徴としての場所」などのキーワードが飛び交い、活発な意見交換が行われました。今後、予定している社寺会堂塾の第2期では、塾を通して学びの有り様を見つめなおし、今回の成果を学びの可能性が広がる場の実践へと結びつけていきたいと考えています。





NOW
TOKYO
PROJECT

上野ナイトパーク 上野公園の可能性 次なる一歩へ

上野ナイトパークコンソーシアムは、ひじりばし博覧会にて二部構成のシンポジウムを開始しました。第一部では、昨年11月から1月までの期間で実施したインターネットを通じた上野公園の利用実態調査や、上野公園や上野地域に関連する地元企業、大学、文化施設、行政機関の方々へのインタビュー調査を行ったものをまとめた内容を「報告。第二部では、これらの調査を踏まえたパネルディスカッションにて、竹之内勝典（東京国立博物館）、古田恵美（JR東日本）、津川恵理（建築家）、



コンソーシアムメンバーに志村泰典（丹青社）、玉置泰紀（KADOKAWA）に登壇いただき議論を行いました。「道」「夜」「回遊性」といったキーワードをもとに、これからの上野公園のあり方や可能性について、様々な角度からの意見が交わされました。

文総会を開催 新会長就任 次なる展開へ

5月5日、東京文化資源会議の総会を開催いたしました。ひじりばし博覧会に伴う開催で、多くの方々にご参加いただきました。総会では、長引くコロナ禍において各PTが取り組んできた内容を各報告させていただきました。あわせて、これまで東京文化資源会議を牽引されてきた伊藤藤滋会長から、新たに吉見俊哉新会長への交代を承認いただきました。伊藤先生は東京文化資源会議顧問に就任いただき、引き続き活動の支援等をいただきます。新会長就任に伴い、これまで取り組んできた東京文化資源会議も新たなフェーズとして次なる展開を予定しております。総会では、これからの東京文化資源会議のあり方について皆様から様々なご意見をいただきました。総会以外でも、引き続き、本会議に関してご意見がございましたら、いつでも事務局までお問い合わせください。また、総会資料は東京文化資源会議ウェブサイト（ライブラリー）にて掲載しております。

編集後記

ひじりばし博覧会は多くの来場者に楽しんでいただけた一方で、新型コロナウイルスを気にしながらも対面・リアル空間が提供するダイナミックでかつ繊細な空気感、日常の中に戻りつつあることが実感できました。今回のような集中開催では、学会の大会でも同じことが起こるように、参加してみたい企画が同時刻に複数会場で行われており、泣く泣くひとつを選ぶということが起こります。そうした際には「記録」が文字や映像で残っていると、そこで議論された大事な内容は後から追うことができます。このT-Chaもその役目を果たえたら幸いです。（陸）

今回、大規模に開催したひじりばし博覧会では、多くの方にご来場いただき誠にありがとうございました。それぞれのセッションでは、様々なゲストに登壇いただきながら、東京の文化の豊富さや有り様を議論できました。地域資源、文化資源は、時代の流れのなかでついつい見逃されがちだが、日々の営みに欠かせないものであると改めて気づかされるイベントだったのではないのでしょうか。足元にある物事も、解像度高く見ること、そこには小さな歴史が埋もれているはず。（江）



[ティーチャ]東京文化資源会議ニュースレター No.19

活み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会 デザイン：波井史生(PANKEY inc.) 執筆：江口晋太郎(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉 印刷・製本：スターツ出版株式会社 発行人：東京文化資源会議 発行日：2022年6月30日

〒110-0005 東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階 TEL：03-5244-5450 MAIL：info@tcha.jp URL：http://tcha.jp/

